

夢の舞台甲子園へ

大島雄也さん(石田上坪)



3月23日に開幕する、第76回選抜高校野球大会。高校球児なら、誰もが憧れる甲子園に作新学院が出場する権利をつかみました。この、作新学院硬式野球部の主将を務めるのが大島雄也さんです。

大島さんは、北小学校3年生から野球を始め、明治中学校では県大会で3位という実績を残し、作新学院に入学しました。昨年の夏の大会以降、主将に選ばれ秋の県大会、関東大会を戦ってきました。「最初は、チームもボロボロで、立て直していくことが課題でした。今年のチームは飛び抜けた選手はいませんが、みんながリーダーシップをとり、チーム力で勝ち上がることができました。」と話してくれました。

今月の輝ける星

1月30日、選抜大会の選考会が行われ作新学院が選ばれた時は、「正直、予想していなかったので驚きました。甲子園のグラウンドに立つまでは、実感もわかないと思います。」と夢の舞台に、期待と不安がいっぱいのようです。

硬式野球部監督の大塚孝さんは、「今年のチームは、今まで私が見てきたチームの中で、一番明るくて素直なチームだと思います。そして主将を中心に同級生がサポートし、よくまとまっています。甲子園では、勝っている時もピンチの時もいい表情でプレーしてもらいたいです。また、勝つことで県民皆さんに感動してもらいたいですね。」と話していました。

大島さんは、町民の皆さんに「甲子園で今までの練習の成果を発揮することができれば、勝っても負けても悔いがないと思います。高校生らしく、はつらつとフェアプレー、そして全力で戦ってきますので応援よろしくお願いします。」とメッセージを残してくれました。

この後、主将としてまず3月15日の組み合わせ抽選会に望みます。

知っていますか? 上三川町のこんなところ

■上三川城主の墓

上三川城主の墓は2か所あります。一つは善応寺の横田家の墓、もう一つは長泉寺の今泉家の墓です。では、なぜ城主の墓が2か所にあるのでしょうか。

上三川城は1249年に横田頼業により築かれ、以後頼業の子孫が代々城主となりました。ところが、1380年の茂原の戦いで、時の城主横田師綱が大怪我をし、城主としての務めが果たせなくなりました。そこで、親戚筋の今泉元朝に補佐を依頼したのですが、その後城内での実権を今泉氏が握るようになり、城主を勤めることとなりました。このようなわけで、城主の墓が2か所に残されることになったのです。

上三川城があった時代は、鎌倉から室町という武士の世の中。戦が多かった時代に浮き沈みがあったのも当たり前ですが、そんなひとコマを二つの墓は示しているのかもしれない。

